長野県　千石綜合観光株式会社
「少年サッカー大会開催による青少年健全育成」事業

千石綜合観光株式会社
取締役
金国経さん

サッカーを通じて未来を担う子どもたちの成長を応援

毎年10月に開催されるセンゴクドリームカップ

未来を担う青少年たちが、地域において心身ともに豊かにたくましく成長していくことは、そこで暮らす地域住民すべてにとっての願いである。青少年の人格形成にとって、地域社会の人々との交流や、社会活動に参加することは、大変、意義深いものがある。

長野県上田市に本社を置き、上田・佐久地区でパチンコ店、ボウリング場、不動産事業などを展開する千石綜合観光株式会社では、「青少年は地域から育む」という観点に立ち、少年サッカー大会を開催している。これは、参加した少年たちの体力の向上を図るとともに、公共心や自立心を培い、ひいては少年犯罪や非行のない明るい地域社会を築いていくための地域支援活動である。この少年サッカー大会は、「センゴクドリームカップ」と銘打たれ、2005年から毎年10月に上田市上堀河川敷グラウンドで開催されているもので、昨秋で通算6回目となった。

一般的にサッカー大会で試合に出場できるのは、チームの中でも技術・運動能力に優れた子どもたちである。そのため、サブの選手やベンチに入れない子どもたちは、公式戦に出場するチャンスがなかなかない。しかし、サッカーは試合してこそ楽しいものだということは、サッカー経験者なら誰でもわかるし、子どもであればなおさらのこと。そうした試合経験の少ない子どもたちに公式戦の出場機会を増やす目的で、この大会はスタートした。このため、最初は小学4年生以下（U－10）が対象であったが、現在では年齢制限を細かく設け、5年生以下（U－11）、6年生以下（U－12）というようにカテゴリー分けされている。

昨年は、地元の上田市をはじめ、松本市、千曲市、東御市など長野県内のほか、群馬県や新潟県などからも参加チームがあり、合計18団体、31チームとなった。選手、保護者、関係者らを集めると総勢1,700人という大きな大会となった。

センゴクドリームカップ開会式

グラウンドでは毎試合熱戦が繰り広げられた

センゴク・ドリーム・カップ」サッカー大会
県内外から31チーム☆熱戦繰り広げる
上田市河川敷グラウンド

Jリーグをめざして…

千石綜合観光㈱（鄭元海社長・上田市国分）主催の「第6回センゴク・ドリーム・カップ」サッカー大会は2日、上田市上堀河川敷グラウンドで開催した。上田市体育協会が後援。同大会は平成17年、試合経験の少ない小学校4年生以下（U－10）の選手に、公式戦を体験させてあげたいというサッカー関係者らの強い思いから発足。その後、5年生以下（U－11）、6年生以下（U－12）の部を増設し、小学生選手らが目標とする大会となった。

この日は地元上田市はじめ松本市、千曲市、東御市や群馬県、新潟県などからも、将来のJリーガーを目指す小学生の18団体・31チームが参加。選手、保護者、関係者ら総勢1700人の熱い応援を浴び、芝生グランドで熱戦を繰り広げた。試合結果は次の通り。

【U－10（参加12チーム）】▽優勝＝開智サッカースポーツ少年団（松本市）▽準優勝＝春日サッカースポーツ少年団（高田市）▽3位＝アルディスタジュニアフットボールクラブ（東御市）。

【U－11（参加7チーム）】▽優勝＝サッカースポーツ少年団筑摩イレブン（松本市）▽準優勝＝ホワイトスター（高崎市）▽3位＝FC東上田スポーツ少年団（上田市）。

【U－12（参加16チーム）】▽優勝＝開智サッカースポーツ少年団（松本市）▽準優勝＝上川原柳町学童サッカークラブ（上田市）▽3位＝アルディスタジュニアフットボールクラブ（東御市）。

大会の様子を伝える信州民報の記事

地域の一員としての企業として大会運営に尽力

千石綜合観光（株）では、単に資金提供という社会貢献にとどまらず、地域社会に溶け込み、「青少年健全育成」という地域貢献事業を実施することで、地域住民からの信頼を獲得し、「地域の一員としての企業」という社会的地位を築くことを目的に、この少年サッカー大会を主催している。

そのため大会運営にあたっては、千石綜合観光（株）の社員が中心となり、スケジュールの検討・作成に始まり、後援にあたる地域の体育協会・スポーツ少年団・協賛企業などの大会関係者との打ち合わせ会議の開催、動員計画の作成・確認、ポスター作成・掲示をはじめとする広報活動、開閉会式・カップや表彰状などの準備・成績確認や発表など大会当日の運営にいたるまで、きめ細かい対応で取り組んでいる。まさに、会社をあげての手づくりの大会といってよい。また、当日の大会の模様や結果は、『東信ジャーナル』や『信州民報』などの地元の新聞に掲載され、地域住民に周知されている。

千石綜合観光（株）の社訓は、「企業は人なり、人は財なり」というものだが、このような大会に参加した子どもたちが、やがては地域社会を担う人となり、地域社会の財になれば、この事業は大成功といえるだろう。すぐには結果が現われる事業ではないが、将来の地域社会のために欠かせない事業ともいえよう。そのためにも、今後も継続して大会を運営していくことがなによりも求められる。